

中央環境審議会長期低炭素ビジョン小委員会への意見

2017.6.11

高村ゆかり（名古屋大学）

6月12日の長期低炭素ビジョン小委員会合同会合における議論にあたり、次の通り意見を提出いたします。

1. 今後の検討課題：世界全体の排出削減に貢献する日本の国際戦略の検討と策定

・この3月の長期低炭素ビジョンにおいてとりまとめたように、気候変動の脅威に対して長期的に日本の温室効果ガス排出量を大幅に削減することが不可欠であるが、「国内での長期大幅削減と併せて、JCM や製品ライフサイクルを通じた削減への貢献も同時並行的に進めることによって、世界全体の排出削減へ貢献していくことが重要である」（41頁）。

・先行して策定された諸外国の長期戦略においても、国内での大幅削減にむけたより具体的な道筋とそのために必要な施策とともに、世界全体の排出削減に貢献する方向性と必要な施策が盛り込まれている。

・世界全体の排出削減への貢献のより具体的な方向性と必要な施策を策定し、それに基づく施策を実施することは、気候変動分野での日本の国際貢献とその意思を明確に示し、国際社会における存在感を高めることはもちろん、国内だけでなく国外においても低炭素の製品、サービス、技術の市場を拡大し、「規模の経済」による排出削減全体のコストの低減やイノベーションの加速をもたらし、そして、世界全体の排出削減の加速をもたらさう。また、適切な施策をとることによって、日本企業が強みを持つ低炭素の製品、サービス、技術を活かし、拡大する市場における国際競争力を強化することにもつながりうる。

・上記の理由から、国内での大幅削減にむけたより具体的な道筋とそのために必要な施策の検討を進めるとともに、世界全体（とりわけ途上国）の排出削減に貢献するより具体的な方向性と必要な施策の検討もあわせて進めることが必要と考える。

以上